

町政の基本姿勢について、所信の一端を3月議会定例会で説明しました。

抜粋・要約して記載します。町ホームページ「町長の部屋」に全文を記載しています。



町ホームページはこちら▼

1期4年間を振り返り

1期4年間はコロナ禍から始まり、就任からおよそ半年後にT S M Cの隣町への進出発表がありました。その後、空港アクセス鉄道の肥後大津駅ルートへの変更や、中九州横断道路「大津熊本道路」や「大津道路」の事業化決定、企業進出や宅地開発の加速など、まさに激動の4年間でした。

そうしたなか、1期目では4つの基本方針である「民間の知恵と活力を生かす」「先進技術（I C T）や民間企業の業務手法の活用」「具体的な制度と仕組み化」「強力なトップセールス」に基づきながら、さまざまな行政サービスの向上を進めました。また、就任前からの諸課題である幼保育園の民営

化や統合、下水道料金や国保税の見直し、太陽光発電設備の適切な設置・管理に向けた条例制定、南部工業団地への給水問題の解消などを進めることができました。

ハード面では、大津中学校や護川小学校をはじめとした学校関連施設の改修、東海大学のスクールバス発着場整備やくまモンベースの誘致、インクルーシブ広場の整備、遊休町有施設を活用した通信制高校の誘致などに取り組みました。一方で、未来を見すえた「新しい大津のグランドデザイン」として、肥後大津駅周辺整備、空港アクセス鉄道の新駅設置、町営工業団地や次世代型子育て支援拠点の整備、幹線道路の多車線化などの新たな都市計画を多数掲げ進めるとともに、都市計画の基本的な方向性を示す「都市計画マスタープラン」の更新を大幅に前倒して実施しています。

「新しい大津のグランドデザイン」は、1期目の就任後から青写真を描き、国からの予算獲得や用地交渉などを進めてきましたので、2期目において本格的に形にしていきます。あわせて、T S M C進出に伴う地下水や渋滞、農地確保、移住者とのコミュニティ形

成といった課題にも継続して取り組みしていきます。

T S M C進出を大きな契機として、大津町を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、今後50年100年先のまちづくりの基盤をつくる重要な過渡期にあります。こうした変化は多くの市町村が人口減少で

持続可能性さえも危ぶまれるなかで大きなチャンスとも言える一方、多くの課題に向き合う必要がある難しい局面とも言えます。そうしたなか、今後のまちづくりの方向性としては、単に町の発展だけを目的とするのではなく、変化の中でも現在町に暮らす人がより幸せになれる、そしてこれから住み始める人や子どもたち、そして我々自身が未来も幸せであり続けられる、持続可能で幸せな町をつくっていくために職員とも一丸となって取り組んでいく所存です。

4つの基本方針

「民間の知恵と活力を生かす」、「先進技術（I C T）や民間企業

金田 英樹 町長

の業務手法の活用」、「具体的な制度と仕組み化」、「強力なトップセールス」の4つの基本方針は、引き続き大切にしながら取り組みしていきます。

6つの個別方針

1. 命を守る防災・防犯対策
災害や事故、犯罪対策には平時における備えが最も重要であり、引き続き消防署や警察署は

備、家畜のし尿処理の課題にも取り組みます。

6. 町民に、より信頼され、愛される役場の実現

町が大きく変化するなか、住民の皆さまとの校区別懇談会なども継続しながら、住民参画、多文化共生、人権面に一層力を入れます。また、より効果的で安定した住民サービスを提供していくために役場の組織力向上を図ります。さらに、ふるさと納税や宿泊税などを活用した新たな財源確保に努めるとともに、窓口などにおけるサービス向上や業務効率化に向けて、I C Tの活用を更に進めていきます。

これらを町政運営に反映するには、町民の皆さまのご理解とご協力が必要不可欠です。より一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。所信の表明といたします。

もちろん、地域一体となった多様な防災・防犯対策ができる体制を強化していきます。また、消防団の機能強化および負担軽減に取り組みとともに、大きな被害を未然に防ぐ河川護岸整備や、大規模避難所となる町総合体育館へのエアコン整備などの避難所環境の改善にも取り組みます。

2. 子育て支援・教育環境 日本一Good Town

引き続き、I C Tの活用も含めた基本的な環境を整えながら、未来を担う子どもたちが夢を持ち、力強く生き抜く力をつけられるように取り組みます。また、外国にルーツを持つ子どもたちや不登校児への支援の強化を図るとともに、町立認定こども園および次世代型子育て支援拠点の整備に向けても、令和10年の開園を目指して着実に取り組んでいきます。

3. 人生100年時代を 見据えた福祉

超高齢社会においても「持続可能な福祉体制」をつくるため、健診、生涯学習、スポーツ推進による病気予防や早期発見に力を入れます。また、公共交通の充実に取り組みとともに、地域福祉の推進や、民間企業との連携による高齢者見守りネットワークの強化など、誰もが末永く住み慣れた地域で豊かに生活できる体制づくりを進めます。

4. 活気にぎわいを生む 仕組みづくり

引き続き、民間企業や団体とも連携をしながら町に新たな活気にぎわいを創出するとともに、町の豊かな歴史文化や自然を振興しながら観光と郷土愛の醸成の両面で生かしていきます。肥後大津駅周辺整備にあたっては、今年中に

5. 町内産業支援と活性化

まずは北口ロータリーの整備が完了する見込みであり、町の顔とも言える肥後大津駅周辺をより活気あふれる場にしていきます。また、空港アクセス鉄道の「中間駅」および周辺整備の実現や、三吉原北出口線の多車線化をはじめとした渋滞対策に向けても、引き続き取り組みます。

地域産業構造が大きく変わるなかでも、既存事業を力強く振興しながら、新たな工業団地の整備を令和9年の分譲に向けて進めていきます。また、この機に現在町に不足している業種のサービス事業者や産業支援型企業の誘致にも力を入れることで、商工業全体の活性化と住民生活の向上に繋がります。農業振興では、スマート農業導入への助成や農地マッチング、圃場整備の推進などを継続しつつ、町内での新たな農業団地整

金田町政の2期目がスタート。